

しが国際協力親善大使レポート

おおの ふみひこ
大野 文彦さん

隊次：2016年度2次隊

職種：小学校教育

派遣国：カメルーン

自己紹介

こんにちは。カメルーン共和国の首都、ヤウンデにて小学校教育のシニア海外ボランティアとして活動している大野 文彦と申します。私は20年以上、滋賀県の公立小学校教員として勤務してきました。現職参加制度を利用して、ボランティアとして活動しています。

活動している国、地域の気候や文化の紹介

カメルーンの地理は、ギニア湾から広がる平均標高90mの海岸平野、平均標高650mの南部カメルーン高地、平均標高1,100mのサバナ地帯が広がるアダマワ高地、それより北部のステップが広がる地域に大まかに分けられます。土地の高低が著しく、かつ海に面している地域とそうでない地域とで湿度に差が生じるため、多くの気候が存在します。ちなみに海岸平野には、世界で最も湿度が高い地域があります。カメルーン山の南西側は、年間降水量が10,000mmを超えます。そのためカメルーンは、アフリカの全ての気候が存在するという意味で、Mini Africaと呼ばれることがあります。

首都のヤウンデは、標高730m。海には面しておらず、年間平均気温は23℃前後、年間降水量は1,500mm程度です。住んでみて実感した気候の感覚は、「日本の夏の方が、うんと暑い！」ということです。ヤウンデは、暑いといっても30℃前後で、日本の夏の方が、はるかに気温が高いのです。しかも、日本は周りが海に囲まれ、多湿。滋賀県では、朝、起きた時点で汗ぐっしょり……。という経験をされた方も多いのではないのでしょうか。ヤウンデは、日本より湿度が格段に低いと感じます。運動でもしていなければ、汗ぐっしょりになることは、まずありません。

ヤウンデは、約250万人が暮らす首都ですが、緑は比較的残されているように感じます。日本のように、大きな木が植えられた公園が、意図的にたくさん作られている、というわけではないようですが、街中でも緑を見かけます。それらの緑の中には、果物のなる木が多くあり、ヤシ、カカオ、パパイヤ、アボカド、マンゴー、バナナ等の木は、道の脇等に、普通に見られます。特にヤシやアボカドの木は、とても大きくなり、30mくらいに達します。一年を通して、何かしらの果物がなっています。

活動について

そんな気候風土の中で、私は小学校教育ボランティアとして活動しています。私の活動する小学校は、首都ヤウンデのさらに中心街、中央市場や省庁の建物が多く集まっている地域にあります。この小学校は、100m×200mぐらいのとても小さな敷地に、なんと4校の小学校が同居しています。だから、校長先生も4人いらっしゃいます。一つの学校には、一年生から六年生まで、大体各2クラスずつがあります。1クラスは40人弱です。

この小学校には運動場がないため、校舎と校舎の間の空間で、体育科を行います。場所が狭いので、できることは限られてきます。柔軟体操や筋力トレーニング、ダッシュ等です。カメルーンにも国の教育指導要領というものがあり、それに沿うように計画を立てて、授業を行っています。

カメルーンの学校は、7時30分から始まります。その時刻になると、朝礼があります。カメルーンの国旗が掲げられている下に児童が集合し、国歌をうたいます。国歌をうたっている間は、全員直立不動です。付近を通り過ぎようとする児童も、立ち止まらなければなりません。国家と国歌に対する尊敬の念が感じられる瞬間です。

その後、各教室で授業が行われます。私の授業は、8時前後から始まります。7時45分頃に、自分の準備体操をして、児童を迎えます。体育科の授業は、ランニングから始めます。次に体操。日本の「ラジオ体操第一」です。その後、腕立て伏せ、逆立ち等をします。

準備体操が終わったら、いよいよ授業の展開段階へ。今日は、「ドッジボール」をします。ところで、カメルーンといえば、サッカーが有名ですね。ここカメルーンでは、サッカーは国民的スポーツです。だから子供達も、ボールを見れば「蹴る」！これしかありません。ドッジボールなどは、見たことも、聞いたことも、したことも当然ありません。

そこで、このドッジボールをする前には、2回程、「投げる」練習を行ってきました。あまり投げたり受けたりしたことが多くないので、最初は右手と右足が一緒に出てしまう児童や、立ったままで足を動かさずに、手だけで投げる児童も見受けられましたが、何とかドッジボールに取り組める段階に入ったと思います。が、まだチーム対抗で二つの陣地を用いて、相手チームの児童にボールを素早く当てるといった段階までは達しておらず、今日は、いわゆる「中当て」、(陣地が一つで陣地外の児童がボールを投げ、陣地内の児童はボールを受けるか避ける形式)をします。

コートの中の児童は、コートの外へ出てはいけないこと、コートの外の児童は、コートの中に入っていくことはできないこと、ボールを投げられるのは、コートの外の児童に限られること等を、その場その場で説明します。コートの中の児童が、うまくボールを受けたときに

は、' Très bien ! ' 等と賞賛の言葉をかけます。

このような形で、1 単位時間に大体二つの内容を行います。その後、校庭を 3 週して、深呼吸。授業の終わりには、「ありがとうございました！」と、あいさつをします。日本語です。児童も、この言葉を覚えたようで、私を見ると、「ありがとうございました！」と言ってくる児童が増えました。



ランニング



柔軟体操



ドッジボール



組体操